

令和8年度 第2回一関清明支援学校「公開講座」報告

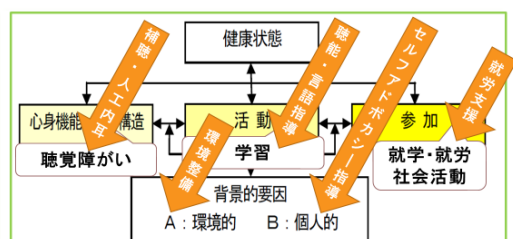
令和8年度一関清明支援学校 公開講座「聴覚障がい児への支援～幼少期から高等部卒業まで～」を7月31日（金）に本校舎で開催しました。本校職員が講師を務め、校内、校外合わせて15名の先生方にご参加いただきました。

当日は、「障がいの捉え方」、「きこえについて、聴力レベルの把握、きこえにくさを補う機器について」などの基礎的な内容と、乳幼児期、小中学部、高等部段階における支援と卒業後について、支援のポイントを具体的な指導方法や取り組みの様子を交えながらご紹介しました。また、近年取り上げられている「LiD（聞き取り困難）/APD（聴覚情報処理障がい）」についても触れ、普段かかわっている幼児児童生徒を思い浮かべながら聞いていただきました。

終了後アンケートからは、『ことば』は思考やコミュニケーションを支えるものであり、信頼関係を基盤とした関わりが言語発達につながるという点が印象に残った』『小見出しから話し始める、注目を促してから話し始める』ことは、乳幼児期の子にも有効な支援方法だと思うので実践していきたい』『発達段階に応じた支援について知ることができ、長期的な視点で子どもたちに関わっていきたい』等の声が聞かれました。

～講義の内容を一部ご紹介します～

自立や社会参加のために



国際生活機能分類：ICF（WHO 2001）

「聴覚障害児のセルフアドボカシー指導と合理的配慮について」野田哲平（2023）

「自立活動」での取り組み（聞こえのプロフィール表づくり）

聞こえのプロフィール表づくりに向け

お互いの聞こえにくさについて共有

状況	生徒	聞き取れるとき	聞き取れない時
場所	A	静かな場所にいるとき	騒がしいところにいるとき
	B	静かなところにいるとき	騒がしいところにいるとき
	C	あまり回りが騒がしくない時	周りが騒がしいとき
口	A	大きくはっきりと話しているとき	声が小さく、口を大きく開けていない時
	B	口を大きくゆっくりはっきりの時はっきり話しているとき	口が小さく早口の時はっきり話していない時
	C	声と口が分かりやすく大きいとき	声と口の大きさが小さいとき
声	A	低めの声の時（低すぎもダメ）	高めの声の時、清舌の悪い人
	B	低い声の時	高すぎる声の時
向き	A	口が見えるとき	口が見えない時
	B	前から話しかけられた時	後ろから話しかけられた時
	C	前から呼びかけられた時	後ろから呼びかけられた時
機器の使用	A	生身の人間の声の時	マイクやスピーカーの機械を通した時の音
	B	字幕があるとき（映画やTVなど）	声だけの時（電車やバスのアナウンス）
体調	A	元気な時	体調がよくなかったり、疲れているとき
天気や環境	A	天気が良いとき	天気が悪いとき
慣れ	C	普段聞きなれたことばを使っているとき	普段聞きなれない言葉（専門用語など）

ことばを育てるために

インリアル・アプローチ

(Inter REActive Learning and Communication)
相互反応 学び コミュニケーション

お互いに反応し合うことで、学習とコミュニケーションを促進するアプローチ方法

原則

- ・子どもの発達レベルに合わせる。
- ・会話や遊びの主導権は子どもにもたせる。
- ・子どもが始められるように待ち時間をとる。
- ・子どものリズムに合わせる。
- ・ターン・テーク（やりとり）を行う。
- ・会話や遊びを共有し、コミュニケーションを楽しむ。

「インリアル・アプローチ 子どもとの豊かなコミュニケーションを築く」竹田英一（1994）

聞き取りに必要な要素

聞き取りに必要な5つの要素

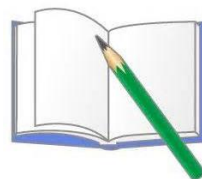
「集中」「記憶」「知識」「推察」

中でも、「集中」と「記憶」の2つが重要

APD/LiDの人は、「集中して」「記憶する」この作業が苦手だから聞き取れない



言葉を聞き取って、じつはとても高度で複雑



問い合わせ先

TEL 0191-33-1600
担当：相談支援部 田村 絵美